



伊地知文庫
文庫20
432



伊知也

728,21
Ka 27



日新

高野功

井上侯小菟

けしきふようほろどたにやわけりる
 けのいづま^赤あきし^赤わ^赤も^赤ぞ^赤ほ^赤は^赤
 了^赤け^赤ら^赤に^赤い^赤ま^赤け^赤社^赤る^赤い^赤の^赤あ^赤き^赤
 の^赤こ^赤と^赤こ^赤つ^赤ま^赤な^赤ん^赤や^赤り^赤は^赤は^赤ら^赤と^赤
 出^赤づ^赤ー^赤た^赤あ^赤ら^赤社^赤る^赤そ^赤こ^赤ま^赤た^赤て^赤
 わけりむ免のをなふらわてよある



けろめくにかつれつちむさくしとめひち
りふさなれみちなはあそむわ

吾田宗直集オハと同筆あり

夢々
うねまれ

極海うきを母妙子置さる
編者小菫

こねりれみめもたにふもひけるを
かからねうてをのいふもあらには
づうけささきにむくまなよらけむ
いそありうてけうりけるよひえれ
やまもなやわれはゆきいそありわ
けれどいひてあむらにまうり
わやを^がみけうたにれとて

こゝろのしんぞく、うらりまうて、
よみそておろけり。
まをねてゆめ、とうねもふ、
ゆきふみわたり、よみそてみじま

在揚子成所訓詁と口筆
多々 兼補集切

低名地 翰墨城

うらりまうて

あまのよみそてのさむしのわび、よはあ
れどあつねえのよそありけり

あまのよみそて、
うらりまうて

あまのよみそて、
けさのゆめんみそて

あまのよみそて、
うらりまうて

日上行成
つゆふ公忠集功
富田宣助氏

郭公

たまはしあはれにほろよまれをまたる

こころよ

小宮清若忠厚凡

ゆまわらぐあまらうらうらつほろよまれいまひ
とららのまのまほそた

貫之卿或曰藤原行成卿
亀山院切
益田存藏

古今和歌集卷第二

春歌下

あつらん よろひん

あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん

まやとつあにちんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん

口上 龜山きれ 善田きれ

くさあひつたをれささるのらわふた
るれをえくよあ

因書 曲侍藤原よりの御

ささめあささのゆんあさ
まら 雅一 常高ノ雅信三ノサウラノ字ノミカ
侍賢内北 十 子所にさけけさ
五生東 子ムル
はをゆくみはにさのあさささささ
ささるさささゆさささ

依地と雪あさし和遊わささ砂子あ

同上 龜山切 善田きれ

東宮の雅院にささの
うはさつらささささ
ささあ

みか、 けりさのささ

ささあさあさささ
おさささあささ
ささのささ
さささささ
さささささ

後代時代よりヤ、意味と帯い、く、天地より、落葉より、電形あり

小野道凡朝臣

本阿彌切

冬田より

うけする所 うけけるのあやふ
 むらさきのゆめになまらけあきせんうつら あきせん
 さりり あきせん
 花のいろは あきせん
 むらさき あきせん
 いま あきせん
 こゝろ あきせん
 さ あきせん
 むらさき あきせん
 わ あきせん
 う あきせん
 むらさき あきせん
 むらさき あきせん


~~~~~  
~~~~~

わらうぢ

むすぶ人あはれもいづれの春
にやあのみどろさるる

おの みるま じつはあな

くもせらげのいろよこふ
のあらさ

みのうよいさうむさうやいさ

~~~~~  
~~~~~

かゝるあはれもさうあわける

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

千ろをばしははるすもかきなる

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

と

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


桂
源
吹

源
吹

翰
号
成

安倍女郎哥二首

今更何乎可将会打廉情者君尔缘尔
之物乎

いあそくらにちりまのひのきりそむうもれ出
ゆいんをまふたよあまのそ

吾背子波物算念事之有者火尔毛水
尔母吾莫七回

わのそはまのれあひりもあそぬ
あまもそつにんわれまられに

桂
源
集
口
上

源
吹

柘
尾
切

地
為
草

全
銀
泥
ま
て
水
也
柳
上
也

翰
号
成

安倍羽下虫麻呂歌一首

向産而雅見不能吾妹子二立離过六
田付不知毛

くくひのそふねえあみわんた
くそわれゆむたつさーらをえ

大伴坂と郎女哥二首

不相見者歲久也
不有國幾許吾志
忘乍蒙恩庶
あひみそるいそむそんあはれた
くさくわれ志ふ法、まあつり
忘志と相有物乎月口有者夜波隱
良武須串羽蟻結

同上
源順

拇尾切

紙草毛 天地子 吾野一雨 金泥 草地 紋 田中光顯 花

垣穗成人 穉聞而吾骨子之情多由
比不合項者

うすほれり 比 ともま たり せ ころこい
ん け した 比 あり け たり

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

情亦若思淚沈緣字至三外身為而集

曾吾為



こころの白きひわすれすにれみよ
うにのみくたたましわれそち
千鳥鳴佐保乃河口之清瀬亦馬打和
多思何時好也
ちとれれそほのうきと力きよき
こころちわすれいづよそむ

右はもと程少の草也今や物と成りて多葉の草と曰物也

源順式云世尊寺伊弉郷 難波切 多言 日暮の草也

古須氣名乃字良布久可是能安騰須酒
香可涂奈之字兜名乎於毛比須吾左年
こほく人れくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
可解古名等宿受夜奈里奈年波太頂酒後
字良野此夜麻尔都久可多与田母
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

藤原佐理卿

通切

井上ありしを子

地布目のかしぬき通しとてふは荒砂子ばりくあり

おもしろもかれた女人をいつくせんあつらふ
われもあつらひもいつくみち

懐くらん

をまはせしきこころれなはわつたのたを
ひもみやや一のはせ

宗平卿

新ねれくさうおしやあつらひのたを
人のこころをさすはせん
わづれせきつらつとれまをたつら
ゆきもいつくわあつらせん

佐理卿

八助切

藤原

紙の地布とて一面まじぬ地のこころわかし

いつく月ねまはつらを懐く

あつらひ物とつらふをな
こふやあつらなつらつら月を

おふ

懐くらん

あつらひつらつらつらつら

おつらつらつらつら

あつらつらつらつらつら
あつらつらつらつらつら

あつら

佐理郷 筋切

吾輩之

長宗

福正孝悌

とあり

古今新歌集巻中廿

下

題名

清人

多岐志 今月 昨日の清き 今日おき 清き成
いづれもあらう ちやん ちやん ちやん
まのふも ちやん ちやん ちやん

佐理郷 筋切

吾輩之

長宗

うまのわらう ねうと ねあめ
せられおと ねをもちあふ

うま乃よれ ねうと ねあめ
うまのわらう ねをもちあふ

うま

うまのわらう

うまのわらう

小大君 市蔵切

香代、きくよて瓜のちりかしくさたりや
しんじゆ

切しつゝきくろんあうし 花すゝの
ふれつとるあま

ふれつとるあま

きくろんあうし
きくろんあうし

きくろんあうし

きくろんあうし

小大君

香紙切

まろし

ひくし

きくろんあうし
きくろんあうし

きくろんあうし

丸

きくろんあうし
きくろんあうし

りとも
おとせ
あはれ
あはれ

~~~~~  
 あゆむもよめてやみぬものぬきぬき  
 ののちもいひてはるる  
 ~~~~~  
 ちよりのあはれぬきぬきぬきぬきぬき
 ~~~~~  
 わそれとちよめぬきぬきぬきぬきぬき  
 つちて  
 ちよせぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ちよぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

人(彦早)

行成師 彦早切 彦早也 一 後 彦早 欣

彦早切  
彦早也  
彦早也  
彦早也

~~~~~  
 あはれぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 ののちもいひてはるる
 ~~~~~  
 ちよりのあはれぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ~~~~~  
 わそれとちよめぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 つちて
 ちよせぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 ちよぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

行成マ 法輪寺切

徒草色

草色よしてはくらのあつとと

因阿摩の

荒離見露秋葉泣涼洞閑風老松出

英の

向曉簾頭生白露終霄床底見青天

善宗

よみぬてあれさやとのいたよわつて

れもささよふてはわれあわ

きまぬけあわささちりま

うらさしーともたりになわ

いっつけささやひよのさみあむい

あをれあむうーふら

お種集

行成マ

針切

低き地

ひさし

あさあそく人もあむぬわつてあそ

この地はあそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそくあそく

行成
ちり集切
紙丸毛
若葉山房光

ふりしき

あまのきりよなかりてさうゆえなご
ううと冬にもほらぬみちあわたり
米あ

ゆめらにも露やぬくしよとす。
雁うよるううしてめりしあ。

ぬ

うせい

さうらうてゆめにも人をさるつよ
あしきのでううおまきもかわる

行成
朗詠切
地浅黄金砂子
田中光政

鴈 付蹄存

万里人南去三春自存小飛不知

伊予月得与汝同均

尋陽江色湖添滿秋聲

得川来

劉

四五朶山粧雨色多三聲得然

雲秋

杜荀鶴

藤原行成卿

郎詠集幼

黃氏全砂子 田中克弘氏

あふふ移ふはつめのうらよ

うねたの河さうらふまうらふまう

来くくはは

友則

山腰歸鴈斜牽帶水面新虹

行成卿或曰尊寺伊經卿

捨遺集切 黄紙花丸紋千舟

好ものなるよるもさあ
 已んしるもさあ
 能宣
 ことなるはくくくく
 むゆあささみはまわさ
 よあひし
 うくくくゆくくひとくくあ
 けけけけけけけけけけ

行成卿

安宅切

銀之山倉原之草

世為俗記

蕙帶蘿衣抽替於北山之蘭梳挂

檄鼓棹於東海之東

江相公

都府播纒者凡乞觀音寺出聽

聲

不出門管

陶門臨眺春胡雨燕三霞色表秋夜

相霜
周中日月
長心言

我屋戸名美地も難きまきて芝けり

都也難起元望をよま一と皆良僧

三三

石元を信奈信まをゆわく信札等と信まを御依多美和のありけり

古式部 久海切

唐京胡粉地 其あふて男命と云くは

神宮子佛ひ花

古今和歌集卷第十三 意 五十八首

やまののりいもらわそそのりく人多物難

てのらあむん地ふすわあまにわうー若ら

あわらうのるあやの湖ん

木まつもつ次湖そまひよるさありーてと暮の

まのよてあつあうー川

あわらひの湖んのつこ信わけるまん取の本

川。神のさうあまあさるれ乃老ういおらあま

お切すゝとゞは後し三葉よこまよとよ

公任卿 尾形切

お新地 佐下 彦 せめを九段 若あまの男

大若宗母の
願仙集
の書
中
の
あ
ま
の
こ
の
こ

流下あぬ春わか
 わらむとけは
 かんやほひ
 らやむかつま
 てさあまれ
 あひのまに
 あわし
 いせ
 いせ
 ああ
 なが

公任卿

同寺切

浅草地金堀子 銀泥下繪 下繪の能

一城子

り

去々々々々々々々々々々々

秋露のつらき、まは

うらまゝの好む

藤原も秋の人

ふゆとこれのき

とそそたる一城

なほ

なほ

公任卿

同寺切

金砂子

銀泥下繪

下繪の能

×

十月一花こころん

名をばけりては

たむるゆふ

く

十月賀儀臨時宗

あね

あね

あね

あね

上任卿

大内切

胡笳

...

...

初冬

十月江南天氣好可憐冬景似春華

四時宰落三分成万物蹉跎過半凋

床上卷收青竹簟匣中用出白綿衣

...

...

上任卿

萬葉切

淺黄...

...

春日藏歌一首

照月遠雲莫隱鳴陰今吾船將極面不知

...

右一首或本...

名字或傳名字不傳姓氏然依古記

使以次載凡以此類下皆放焉

公任卿 古今集切 天智天皇十三年

うきうきにぬすめたるものやまらや

寛平元年付中今言今言

素足法師

くぬのみぬいよけむわううくきり

うきうきうきうきうきうき

きりきり 讀人不知

さげらさげらさげらさげら

さげらさげらさげらさげら

古今集切

みづね い

紙茶色

よりのはよきやんきううううう

やういさういさういさういさう

ねんねんねんねん

せ中の人の情ハ 新降の福やまよも

のみてあつら

しんきうきうきうきうきう

福を福しと城

きりきり

公任卿 朗詠集切 胡粉地 三井子保氏

わつせよよみちんとおろそおめあそれ
ふれとそよふくゆくのそははま
いそとめてしれをそよん、めあそれ
あわやー 次みーちたりのくー 不恒

红梅

梅含鷄舌色紅氣江身瓊花帶瓊父
浅紅鮮娟仙方之雪魄之濃香芬郁妓
館之煙讓董一道

公任卿 朗詠集切 妙子あり 傷名也花

爐火

芙蓉綠韻早冬然絳帳紅爐暈夜開
昔無野鳥聽無響臘寒風光放火早菅三

此火直鎖忘樹把對朱於日有雲情嵐

多時縱醉号花下正及那能歎補昭

うのみ忠乃たのこ、つれ志とよよわしる

たろもあろそわろわろ 業平

公任卿 天徳歌合切

初夏

左 妹

能宣

茶の依子全波御子 茶の平小るすのめ

い〜し 振

新〜あ〜 ち〜う〜の〜く〜と〜た〜ち
乃〜あ〜う〜れ〜う〜ら〜も〜を〜こ〜ら〜く〜こ〜

こらる

右

中 替

那〜考〜極〜多〜あ〜ら〜う〜ろ〜あ〜ら〜ふ〜た〜は〜花〜
く〜く〜ろ〜ろ〜を〜わ〜ら〜わ〜の〜あ〜せ

公任卿 五輔集切

茶の依子あ〜る〜砂子 荷是成

七月七日うたふらんらをこま〜
とあ〜し〜る〜し〜ん〜押〜

つねのあひらうき〜
ち〜り〜

〜れ〜に〜わ〜す〜の〜い〜あ〜す
あ〜ら〜ち〜あ〜ら〜あ

あ〜ら〜ち〜あ〜ら〜あ
あ〜ら〜ち〜あ〜ら〜あ
あ〜ら〜ち〜あ〜ら〜あ

公任卿 中務兼切 茶色紙 招妙子金ガシ ひとしほ

まよふ海河とく春の事つらむき海

人れらふあれ七日夜

千年もあて君ありやうみの葉うれ

こもた母いよれあふくくあまら

物行人よたらのねをぬあ

しつやうとく

標

公任卿 金澤切 胡粉紙 茶色紙 毎て厚紙 五井の巻紙

恋の毛曾くかたお水無瀬に下流き渡月と雲

いふくももをばくくあまらうあやうは

しつやうとく

初霧を替物分る人あふ今す死意海鴨

あまらうあまらうあまらうあまらうあまらう

いふくももをばくくあまらうあまらうあまらう

伊勢海を磯毛劫年日流浪思人よ恋渡鴨

いふくももをばくくあまらうあまらうあまらう

是の書ありて道風筆 かろゆ切し 西の書切し 日筆 あり

公任卿 捨巻素切

紙のうへに地文ありてなきて
圓字の女流

みてさゆきささるのこれ
たいよみささる
ささる水よりささるのわらわ
うつらささるわささるわ
我のわらわのささるささる
のささるささる
ささる院の音全に

日
本

い
し
た

くさわはもはまきし
われのうはささるささるわ
たつささる
なほささるあつささるささる
はささるわささるのささる
ささるささるささるのささる
ささるささるささる
かあささる

上住下 右田切
遊女

黄紙 厚竹地紙 延平草子
高田重曲氏花

秋水未鳴遊女佩寒雲空滿望夫山 関之草子

翠懷紅園万事之礼法雖異舟中浪

上一生之歡會是日 三三

倭琴緩調臨潭月唐摺高推入水煙 順

倭琴緩調臨潭月唐摺高推入水煙

し 遊女 三乃 五すの 新工 折り あり
第ナ 打 あり 新 止 折り あり 多 あり 海人 流

うはきみのよめひさきよのーくねえ
 わきしぬものかねわつししき
 あつてころばもしむすはわんさあ
 わきさよのちれわきわくさよ
 わきんさむいおまやころのけくつた
 あちりーわんさよさうさよき
 わすれじむわれさうさよふにほさ
 人のあまのいりくもさせ
 ささすめくあさつみののはのよさ
 こころあまのや人のおささ

藤原定頼卿 鳥丸切

茶七きり川全妙子

さうなさんころのむさよわ
 さころのさよのさおむさ
 さあてさるころのさみさ
 さあさるさ

小若君 惟忠親王妙子

わさとのなげさささ
 なささささささ
 ささこのころはささ
 あささささ
 ささあさ
 さささのほささ

三頼の鳥丸切

大同断

はるかに世に

信玄死

いふはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

よもやまといふもよもやま
いふはるかに世に信玄の

ゆきのすくしあふをらんもの

よ
あきらけいのひき

いふはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

もつはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

もつはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

あつはるかに世に信玄の

よもやまといふもよもやま

いふはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

見つけやこれにあつは
るかに世に信玄の

いふはるかに世に信玄の
よもやまといふもよもやま

あつはるかに世に信玄の

万葉の巻の初と終に二

信玄集
あつはるかに世に信玄の

吟しど ねしど とうき ねしど
 わさみむめはなせよよふんか
 あつさふみきんごむんむめれそれ
 みねんみさきゆみわさ赤人
 わるされうなみそらにうらひを
 ちめむむのうらふくさくさ 船柱
 まそののみやひさうたうんやうけさ
 てきにふかたひはさよむま性

中ゆき安陸 廣運

よしむつれを
 おつらうすれ
 つらうや
 みねふたをのこあつはうかやの
 おうら露をむめわの
 かしん
 はるうれもろく 海をも
 いん物を
 秋のねえんさるり 赤毛

千載

太氣之位 満中印

是より地改をししり

みきり

さうりなり九をいさうさうふいあ

こわり

井さみきりあ

はらけしあ

こわり

いあさうあさうあさうあさうあ

みきりあさうあさうあさうあ

はらけしあ

御子左志家口

柏木切

息を野

低形あつ核子原のあつ海目あり

うらひすた

い

うらひすたうらひすたうらひすた
うらひすたうらひすたうらひすた

たう

うらひすたうらひすたうらひすた
うらひすたうらひすたうらひすた

のうらひすた

うらひすたうらひすたうらひすた
うらひすたうらひすたうらひすた

忠家マ 仁和寺切

低質お同割

各森身男花

梅花咲落過ぬ我為餅白雪輝尔冬重管

おめその風 ころりあゆめさつらんよしゆよにそふ

今更雪零目八方晴たを燎百者却常成西切平

いよしたにゆよふあわしうをうふれそゆるを流こいなわ

如是汗雨之零も亦霍云多字乃花山亦猶吾如也

うらうらあめあめこほくすにけのりあやこを

詠蟬

字子左俊忠マ 二條殿切 低質お同割 い

五番 惠

左 勝

七

或る後

うらみわおほとわうし者にあるものを

うらうられすれころを

七

或る相模

去者しゆつあめくををうりしとを

あめひのうらうら

非片糸院 根元

後志 二条殿切 依お日別たし三罪をし 阿は信を死

十卷

休從親母

あちのちれきくわろくくまはくく
人のくろくくまわろく

右

相橙

くろくくわろくくわろく
くろくくわろくくわろく

水浦

くろくくわろくくわろく
くろくくわろくくわろく

後志 歌合切 益田孝茂

百卷

卯
右

春もさきくくくくくく

くくくくくくくくくく

右

うのくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

源俊頼朝下 良邦切

白地胡粉巻巻甲



いこしね

あゝのちのひまをさしむわねこれらる人
人よそなたのむらさきとよま

志もついつともさへに人のちきり

日々せいはいしのたうーんいあ

かきこもしてさうこもまきくまの

小町のちよよつりい

あへのまはゆきの朝に

つゝめんうけよなちさぬーんかぬ人
をらぬめのたうさしたわを

ムー
こまはち

かきりお棚下 良邦切

白地雲風丸紋 山田和子白紙

木ほりたをわつたうもみちさ
たしうもさうみつたまみちあすくち

李貞文

まらうよりまらうさう人もちあすくち

をちうめらせまにあへもむさうつうな

讀人不知

うせうをほちうみうつちのあつれ
形やわらあうはれてちのよわつさ

あゝたまのこしけをたのしくかくるひをまゝ
とわふ乃さまたぐらめやも

思遣為使乃田時トも吾者無不相數多月之終言者

おまゝにやちまののこころいをわすれぬ

あゝは下はおのふツキハハ

朝去而暮者未庶君故念忌久毛吾者款鶴鴨

あゝゆゑにちまのけはまゝにゆくゆゑに

源朝太郎 拾遺集切

卯色地 ききりて水中にけりて 陽浦 朝陽のそら

上総よりむすんで侍る人

源頼光の家よりてまじくしる

ついでついで

藤原長経

あゝは之をせむ乃甲にまを分てま

あゝれにやのふれ年久下りぬ

後頼朝

後拾遺集切

ついでに地敷

御是方

年久くともなる昔も
 ちりわくあつたまは
 ことわきあそ
 後人 ちよ
 ながけのふつるま
 ちりわくあつたまは
 おもひつらあや
 直保のまつてまき
 乃しこれのまき
 ちよすまき
 御内保

りくしん

わらわわ

古今集切

後拾遺集切

よみゆら

ちよすまき
 乃しこれのまき
 ちよすまき
 御内保

大和國一まきかけら
 霧れこけり

友別

たうまのら
 佐保のつぎたら

後保のつぎたら
 ようひ

俊頼朝
古今集切
有る布見きくかきこ、う格帝を死

そつたふ

そつたふ

いのらよこつゆをこのむまがふ
たふその物ひしらまなくの
れむし

河竹

ふらふら

きと不分うたふううゆくひ
あかこの月ふそくへさあよ

口上
白地お母よお市姫子の地段きくうううう格帝を死

のやううせ

おらふ

おらふ

燈起も中鞠みうらね草一の光

孫中納言 馬場中納言と名付流石

七、七 招 招 招 八と六

木部

いさゝめ乃時納言 平日者納言

日上

徳の子と九代九位がき、うづら納言

心付せをけ人二見之字

たし ち一也 くらこ

忠厚、家の長

あゝとふしれらるる法やそ
うとふとふあゝとふとふをけ
れ了ぬ物柄

七言五言 了光集切 夢中もち 紛のくみししとろり 全録ゆ

ちとれのおむりのうははまももは

かき 御うみ

あそびをたててまじしとあそびを
まじりあそびをたててまじりあそび

あそびの足りぬすむとあそび
はれ大酒をたてあそびをたてて
あそびをたててあそびをたてて

はれあそびをたててあそびをたてて

落原俊基 山名切 夢中もち 梅に伝ふる

春夜

不明不暗 暈月 非暖非寒 湯心 春夜

春夜 欲明 牛渚 之西 溽 夏 日 告 羽 指 象

魏而北 魏 古廟 春正 暮

あそびはははは ちとれのおむりのうははまももは

永式部

佛名

付除夜

藤原俊基朝下

多賀切

依黄紙

〇〇〇〇

香火二燈燈一盞白根夜社佛名流

戲贈北野森

香目禪止世月火花用左掌不因春

漱海屋作

あゝいあのうーそさるははーくわあ人つ入

このーらそとあやしわー 兼感

かそおれをわろるーつさるさー月とわ

いっつあつあうーいんじん 同上

拾

藤原頼朝の鶏切喜楽に
ひくくしん
うす若色ニきりぬくや粟こうつらの下段

主のわあ〜〜思ふは〜帝也
〜よんまにたまひ白浪
は〜ゆ〜

帝 心や〜
〜
〜

右に乃む〜
た帝
斗〜
〜
〜

右原堂年 始

日字集

源頼政御 三井寺切 うち黄道之地 橋を成

井中
〜
〜
〜
〜

後朝魚

あ〜
〜
〜
〜
〜

上ノ和及マ 平等院切

五代草子

信名丸

王子晉之昇仙坂人立祠於維新之月

羊太傅之早也川客隊去後おんらま生

促於良本其權欵遺愛甘泉勿剪淫

出の 坤がきと也

出の 坤がきと也

ふ乃まの何まの心と并の

源頼政或曰寂蓮法師 大坂切 又寂蓮寺と名付置あり 大日綱次花

仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陸測變
作瀨之巖窳、洞口沙長ぬ巖之頌洋、
満月古今和言序

梁元帝遊春王之月漸落固穆新會

西母之雲多級

内宴多聲韻下位
昔之品

ちり如星夜すたくらたるふささる
り知る所のらハ美試、の事也

俊成卿

顯廣切

うき書也

岸光景花

かみおれきつ子、いぬもねらるれば
こよし、えちぬしのようおわら
あつ人のいづくこのうらみよのね
いまうらまふ人乃ちわ
むらけよの元ともゆへはむらうら
くはひみれおえんとうみら
めのおとうとねえはわき人
うらさぬむらうとよえわわら
あわむら乃朝

業平歌

あさのよさわき—あさのうてま
あさのよさわき—あさのうてま

おの—ま

みあめれまわりのうらら—
うらら—あまのあ—

源むねゆきの歌

あさのよさわき—あさのうてま
あさのよさわき—あさのうてま

後成口 ちき集 ちき集 ちき集

ちとちちちちち

ちとちちちちち
ちとちちちちち

ちとちちちちち
ちとちちちちち

ちとちちちちち

ちとちちちちち
ちとちちちちち

秋哥

立林

春ふの雪も、あふみのちる風、こころうらた
し、ふしの風も、あふみのちる風、こころうらた

七夕

くぬちるふ乃あふらみよわくわくのうらた
いふ枯るるうらた、はるのうらた、

秋

ちろとくぬちるふ乃あふらみよわくわくのうらた
いふ枯るるうらた、はるのうらた、

後成 任吉切 七夕 立林

Handwritten text in a cursive script, possibly representing a musical score or a specific dialect. The text is written vertically on the right page of the notebook.

西行法師 向川切掛見 茶色と心 傷名花

Handwritten musical notation consisting of several horizontal lines with wavy, rhythmic patterns.

Handwritten musical notation consisting of several horizontal lines with wavy, rhythmic patterns.

小野道風

Handwritten musical notation consisting of several horizontal lines with wavy, rhythmic patterns.

かねてよき御心持に
 こそあらはれぬ御心
 ののちもよき御心持
 いかんはよき御心持
 まるくはよき御心持
 物もよき御心持
 本家のよき御心持
 あつたよき御心持

廿二番

左

若くはこれにゆき
 かさりのしとみ
 けり

右

杉山のびるこ
 やるもあ
 けり

左木井の龍日
 故不判

西行 郭公十八
と化するを
之中より出づる

あはれなる心は
かたじけなく
あはれなる心は
かたじけなく

（歌）

あはれなる心は
かたじけなく
あはれなる心は
かたじけなく

寂蓮法師 吉原門切左衛門
徳吉丸

古今第一奇事なる事ナシ 難言

あはれなる心

よき人

あはれなる心は
かたじけなく
あはれなる心は
かたじけなく

庭草 大正印

侍る花

落葉

三秋而宮漏正長空階雨滴方里而御園河在

落葉寔深

愁賦

秋遊不掃榭藤杖閑踏梧桐黃葉行白

城柳宮槐湯搖落秋些不到貴人心白

梧楸秋中一掃之而空灑鷓鴣塢月上數行之

秋殘順

いれんたるてちるあをくふのあは
けふるの街るりけい

右一首并或月別名は教良所註

也清は雅作は并

皇正和國娘を月并一首

娘を字はたはてし洋也

雲漢を方半七路吾志月哉若く欲見を流
く〜〜〜〜〜
月と千〜〜〜〜〜

九條益實云 中山切云々

孝と地ありを限りて細きと藤のうろたへ

浄名礼

汝月々々あり〜〜〜
〜〜〜あり〜〜〜
〜〜〜あり〜〜〜
〜〜〜あり〜〜〜

お同教信

仁信〜〜〜あり〜〜〜
〜〜〜あり〜〜〜
〜〜〜あり〜〜〜

夕我通親の 新山切のい 毛地なる いくい一板

きとふむさく又あとの
ちう花をふてふあち

寤然は所

このさうおちり世はるるを
らそいむがしきつらふあを

野ふ知

ふのなつをてわちのいあは
まはうくうれあはるる

山ふふ
うふふ

ふ月々 大慈寺切

毛地凡も依

三番

左

道經

志もほやこいあもーきこのよよ
りまの月みまをうら花

右

後軌

ゆまのうらあめをうさけるう花
七う千人こらうはう

四番

左

雅魚

うねえれすうらあはううう
ちゆう人あううう

藤原の御

皇流切

イ

経房の家を合承曉月乃心
をいふなり

二条院曆

おけりし小社乃孫とゆふの位をい
はしむる神小町をいふは月

五十首を然る時

藤原雅経

えいふる孫とゆふの位をいふは
やとふ月乃とゆふはなす

玄復和而 園山切 ちやあ

り

祐子内親王家并合のりし方
号よと何とくあり

権大納言長家

すしとくゆいあきれかきしとくを
をりうなれをいふやあらしん

橘政大政と家乃百首并合

和太僧心慈圖

わいしとくゆいあきれかきしとくを
いふくしとくゆいあきれかきしとくを

家隆 下 升庭切 せいの果

柳を成

志摩赤貞長貴

まらちちをよあさのねはら
まらに西をよまふこころ
あさのころ坊

後冷白院河見流宮乃

春秋言合しきふそこの

心せしきふ

五右衛門侍

よらにまをきこころみま

家隆 下 中院切 せいの

そりりまふか

源とよみの朝下

あれたふれあまのりそられいそまらう

かたしそとてはあまねこのよ

百そそけをうそそれんをよそそ

まふまふ

宗徳院法親

なまあそらに花を秋をねまきうそ
あにまらゆのうそをちりそ

後京極良道公 内侍切 下草書 金銀切 加す 物名

し〜雲ふりぬきちかり〜ふりの
うちへんふり秋のよの月 徒垣
世ふふれはもたれあとし〜たやん
月ふり〜んか〜しん 徒垣

九日 付菊

鶯知社日辞 葉去菊力市馬 冒雨用 李瑞
採放事 於漢武則亦更柿 若人 紅

此多并種佳 今誠切 ありき候 極好法

清原深養父

み〜ほのなうれんをあら〜ん
ん〜ふり〜んよ〜んさ〜ん

平定文

さ〜つゆ〜ん〜ん〜ん
な〜ん〜ん〜ん〜ん

正長并録位 長谷川 初傳

カキコト

眼貧蜀郡載錦屏

秦城調忠筆

花の鳥と稀
相親

よのぢりよたふく
まのけいそ名うらめ
ふらけは
ふらけは

昆布并録位 羽録集

言も依 あいさし子日記

氷

氷封水面閉云浪雪點林頭見有花 菅

雪妨鶴暖寒甘露水結狐疑薄有氷 相如

おろろらの法きせひりてむれ
かきみーみつうまふらばらる

甘露寺資任

堀内院切 徳りるそ

珍名丸

おちこちのそねのつぎになんこりり
いふたになりぬつまにちこりり

露

公實

やまこりりそねのつぎになんこりり
いふたになりぬつまにちこりり

廷房

こりりそねのつぎになんこりり
いふたになりぬつまにちこりり

國位

こりりそねのつぎになんこりり
いふたになりぬつまにちこりり

源家長朝

龍田切

金屋をいふおふちるるつるあり御名丸

祝

嘉辰令月新之極百歳子

秋亦未矣

長生殿妻春秋節少光

茶色
つるあり日月進

そのと

わつこころんいぢよたやちよんかゝりの
 びんをちりていけのじすもて
 とあつよまふあまき乃らう呼ちく
 ちちちよんこりーるらり新

藤原定家の三首切せし事
 物言歌

たす言平春左西門縁取屏ゆい冬
 拾花ははゆりゆけん冬の花
 拾花ははゆりゆけん冬の花
 たす八年の筆のたすお在陰の比方
 七十加らやうの屏凡 考の家
 加はす大ゆ松のまじり
 加はす大ゆ松のまじり
 ちちのちの
 ちちのちの
 ちちのちの
 ちちのちの

定家 銀色切 廿八 翰を成

あふれたるよむじとふ手人言人許をめぐら
うとあやしやけあさるるのち忠かよのりてこ
と天のうつをやちなるいしよ

壺浦朝片

人の来や乃ほそひよあねを子を思道よるるぬるが

せとまゝそのまゝはくよあけくをふた

江注 大江玉淵朝片女

たのまゝのまゝあふをまゝまはのしや許

陽成三三式一仰天徳寺壽七十六

元長のみこみすみゆりる時了るゆりよなるい
けけゆるるすこるあわらむしをひくゆと
又こむ時よあらむとまめかみよこしをきて

ほし
う
ん

二条為家卿 非治切 ねつさき 全紙虎砂よりし紙

右

女之字に

うきぬを中りゆさおしつ
せけんくあはるる人あまの

世尊寺伊経師

尾子切

三瓶くしき

棒の端ら端ら

あふやういふかきとふけく
人しあ

新垣

河いよきのもれこのをよ
あはさしこくしあくら
くむすなこ也

世尊寺伊経師

尾子切

三瓶くしき

あふやういふかきとふけく
人しあ
河いよきのもれこのをよ
あはさしこくしあくら
くむすなこ也

新垣

あふやういふかきとふけく
人しあ
河いよきのもれこのをよ
あはさしこくしあくら
くむすなこ也



世尊寺伊佐マ 久世切 昆子 万の集り ひとしほ

右様お釣五人札集年
出

いとういよ

やまゝいころちゆつひまゝねねあま
ちいゝらつらふむいゝあゝらゝい
めゆまもいゝを
ろゝまゝいめのあまあゝらゝい
いゝめゝいよめあゝらゝい
あゝらゝいゝ

源實朝公 中院切

いゝあゝらゝい

茶地金取子 益原くち いゝいゝ

市前内太

しのをむねもゝられやみゝらゝいけはあ
かしのうゝいゝらゝい

出雲國よりそゝらゝい

いゝいゝ

中御一階

七もゝらゝいみやゝみゝらゝい
たゞつゆけよゝいゝ

一七
~~...~~
...

字尊... 如意宝集切...

...

如意宝集卷中

夏

於泉流の東宮よおほけまけり時
百首此初号たぐあつりけるなうり

常力長源重

きちのつろよろめーたもこのをーんれ
いゝるもえうきけつーいあるれ
たうのはーめよふはりけ

威明親十五

はなぢらるといひしはなぢらるる
そたうわねらるるといひしそたうわね

